

ICT推進課

小原健稔

現在スタッフは下記3名です。

小原健稔、中澤章子、徳橋佳典。

主な活動

- ・ RPA による定型事務作業の自動化適用業務の拡大

RPA による対象業務を拡大しました。

深夜や早朝、休日であっても「ルール化した操作」とおりに人に代わってパソコンを操作し、「決まった時間」に「決まったパソコン操作」を自動化するものであり業務時間削減効果が表れています。

【削減効果 概算】

- ・ 医事課 病床稼働状況報告書作成、同稼働状況遷移グラフ作成
業務開始前 25 分程度の作業を RPA で代替
- ・ 医事課 管理料電子カルテ記事チェック
管理料算定対象患者の電子カルテ記事記載チェック（患者約 2000 名対象を月 2 回）
を RPA で代替
- ・ 経理課 当日入金一覧表、同集計表の印刷ならびに返金対象者一覧表作成
業務開始前 15 分程度の作業を RPA で代替

⇒年間 約 723 時間の時間削減

さらなる RPA 適用業務拡大を目的として、今後は各運用部門にて RPA の使い方や運用方法を学ぶ場を提供し、現場主導にて業務効率化を推進できるような体制づくりに着手したいと考えています。

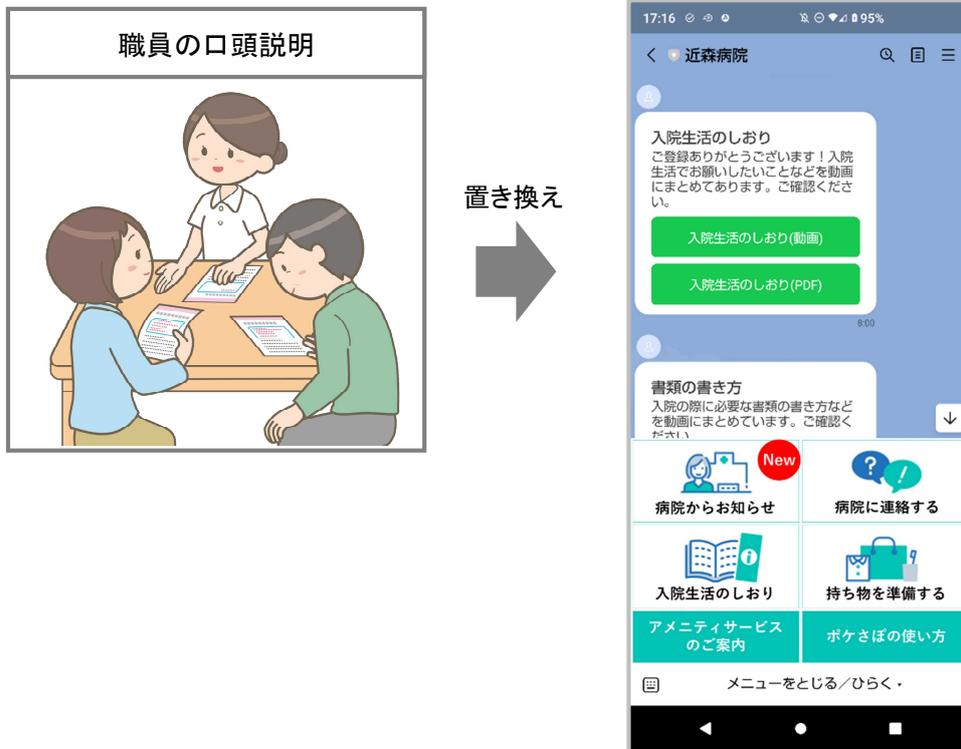
<RPA>

Robotic Process Automation の略。人間に代わって複数のアプリケーションの操作実行を自動化するもの。人間がパソコン画面上で行う操作をルール化し、それに基づいて操作を再現するものであり、同一パソコン上にある個々のソフトウェア同士をつなぐ役割を担い、同時に実行日当日の日時を取得したりすることが可能です。

加えて最近の RPA ソフトウェアは GUI（グラフィカルユーザインターフェイス）の採用により専門知識がなくとも直感的にプログラム作成ができるレベルに進化しています。

・入院説明の半自動化ツールの導入

入院予定患者・家族向け定型的な説明を職員の口頭説明に代えて「スマートフォンのLINEアプリで動画やPDFを配信するサービス」の検討を行いました。



入院に関する説明は職員、患者、同家族にとって長時間の説明が必要であり双方にとって大きな負担となっていました。

もちろん病状や診療科により説明内容が異なる部分は多くありますが、入院に際して設備の使い方や食事、準備すべきもの等病棟などに関わりなく同様の説明内容のものも多く、これらを動画やPDFなどの電子コンテンツ化し、患者や患者家族が普段使用しているLINEアプリを使って案内する仕組みとなっております。

国内で広く普及しているSNSアプリLINEを使ったコミュニケーションツールであり、患者だけでなく患者家族も利用可能であり、デジタル配信ゆえ利用者目線では「コンテンツの見直しが容易なこと」に加え管理者目線でも「コンテンツ管理が容易である」こと等メリットが大きいと感じています。

2024年4月ごろの本番運用開始を目指して準備中です。

・その他各種業務支援

<情報セキュリティ対策>

昨年に引き続き情報セキュリティ対策として「標的型攻撃メール訓練」を実施しました。

当院では当然のことながらアンチウイルスソフトによる対策を行っていますが攻撃手段や手口は日々巧妙さを増し、脆弱性と呼ばれるシステムのわずかな隙間を狙った攻撃も増えてきています。

利用者一人一人のセキュリティリテラシ（知識や能力）を底上げし、これらの攻撃を受けたとしても深刻な状態とならないための施策を継続して実施していく必要があると考えています。

<電子帳簿保存法対応>

2024年1月より電子帳簿保存法改正が施行されました。

従前は「紙」の契約書、「紙」の請求書や領収書を原本として保存することが義務付けられていましたが、本改正では「電子的に受け取った書面は電子的に保存することが義務付けられた」ことが大きな転換点となっています。

取引先や業者ごとに「電子メールへのファイル添付」から「web ページ上での表示、保存等」さまざまな受渡手段がありますが、電子帳簿保存法の要件を満たしたシステムを選定し導入、各部署と主管部署とのつなぎとなる部分にネットワークフォルダを活用し、総合的な業務平準化を図りました。

<他部署支援 web 講演会や研修サポート、看護部支援>

管理棟大会議室2への高規格 web 配信カメラの設置とそれを使った定例会議のハイブリッド化を行いました。

ほか、職員食堂のチャージ機更新期限到来による検討や昨今話題となっている生成系 AI< ChatGPT>の使用に関するお知らせ、使用方法の提案、看護部勤怠管理システムナースエイドの操作研修や同様の院内研修を録画し、中途入職者や振り返りに使用できるよう動画コンテンツ共有のためのサポートを行いました。

総括

生成系 AI の登場に代表されるように技術の進歩、革新は新たな局面を迎えていると思います。いかに優れた技術、テクノロジーであってもそれらを使うのは我々人間です。新しい技術や新しいモノの仕組みを正しく理解し、必要に応じて使いこなすことが求められていると感じます。

「システム導入＝効率化」とはなりません、現場の方々といっしょに知恵を絞り、課題を乗り越えていきたいと考えています。今後ともご協力よろしくお願いたします。